

〈招待講演〉

アメリカの金融危機—大恐慌と比較して

東京大学 貝塚 啓 明

1. 深刻さの程度

現在までのところ、統計上は、深刻さは小さい  
GDPの下げ幅、物価の下落、失業率の拡大  
将来どうなるかは、何ともいえず  
受けとり手のパーセプション

2. 経済構造の差異

第三次産業の比重拡大

金融業

金融資本主義 Financial Capitalism 1930年代にすでに議論されていた

製造業の地位低下

グローバリゼーションの差異

変動相場制の定着

ケインズの指摘

固定為替相場 為替市場の不安定

政策の対応 (1930年代)

財政政策は、中立的・金融政策は、抑制的

金融構造が大きく変化

1930年代は、銀行中心

証券化の過度の進行

3. 大不況の教訓

金融仲介プロセスの麻痺

株価暴落の影響

期待を左右する要因

資本主義には、本来的に不安定な要素がある バブルの発生

負債デフレーションの役割

消費支出の動向が重要

耐久消費財 (自動車・住宅) が重要

4. 今回の危機の制度的背景

アメリカの金融システム

規制当局の分権化 (保険)

連銀の対象は限定的

イギリスの場合

BOEとFSAとの分離

日本の場合は？